

第 11 回中野総合学科新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和 5 年 8 月 4 日（金）

18 時～19 時 30 分

会場：中野市中央公民館 301 講堂

<次 第>

1 開 会

2 挨拶

3 会議事項

- (1) 「第 10 回中野総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ
- (2) 第 8 回校地検討会議の報告
- (3) 新校の学校像等について
- (4) 再編実施基本計画について

4 その他

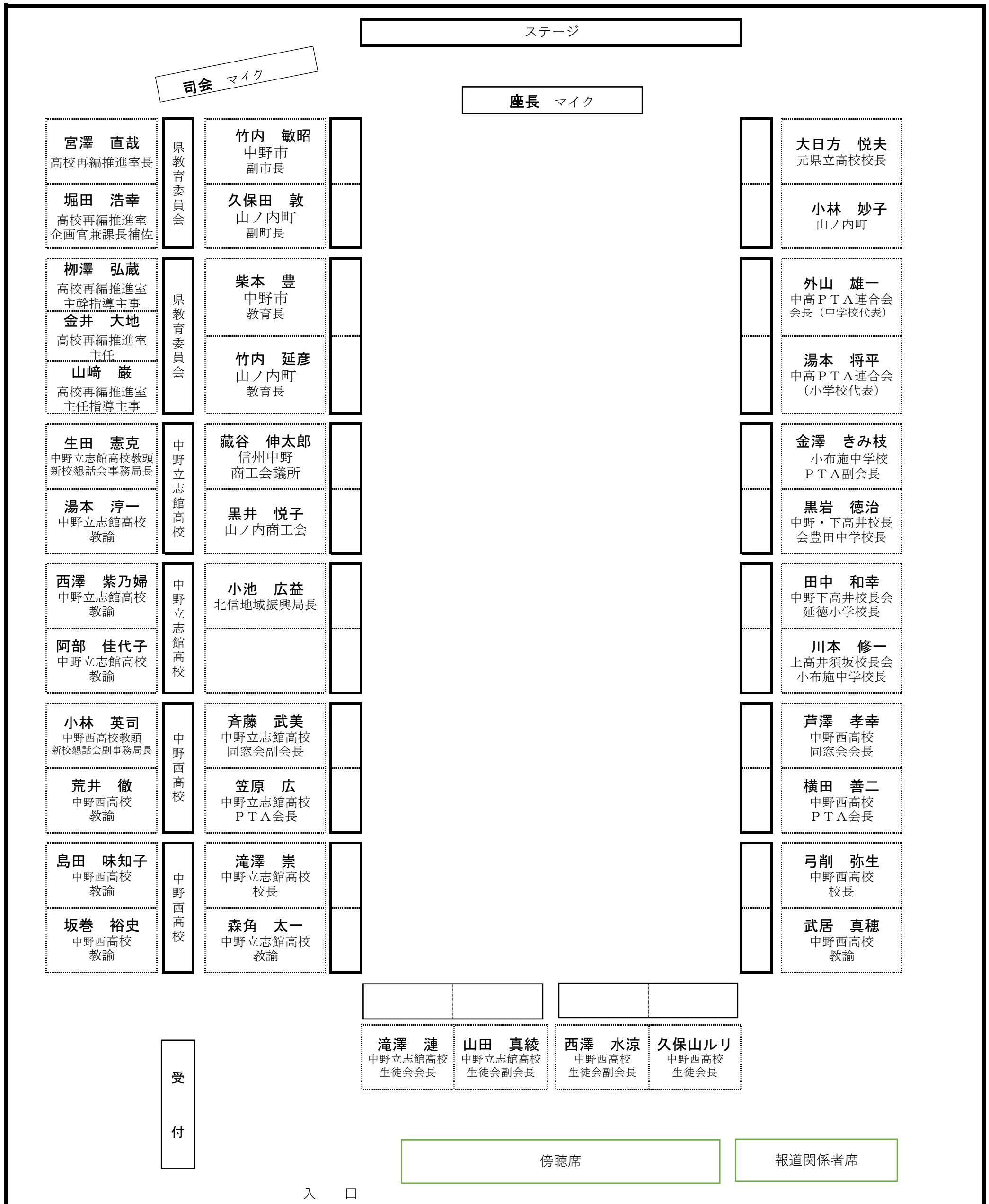
<次回の予定>

第 12 回中野総合学科新校再編実施計画懇話会 9 月予定

5 閉 会

第11回中野総合学科新校再編実施計画懇話会 会場配置図（席図） 2023. 8. 4

会場：中野市中央公民館



第10回中野総合学科新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和5年(2023年)6月26日(月曜日)18時00分~19時15分		
場所	中野市中央公民館 301講堂		
出席 (敬称略)	竹内敏昭、久保田敦、柴本豊、竹内延彦、黒井悦子、芦澤孝幸、笠原広、横田善二、外山雄一、湯本将平、滝澤崇、森角太一、弓削弥生、武居真穂、黒岩徳治、田中和幸、川本修一、大日方悦夫、小池広益、小林妙子、滝澤漣、山田真綾、久保山ルリ、西澤水涼(以上24名)		
欠席 (敬称略)	蔵谷伸太郎、斉藤武美、 金澤きみ枝(以上3名)	傍聴者	9名 マスコミ4社
事務局	中野立志館高校	生田教頭(事務局長)、西澤教諭、湯本教諭、阿部教諭、森角教諭	
	中野西高校	小林教頭(副事務局長)、荒井教諭、島田教諭、坂巻教諭、武居教諭	
	県教育委員会	柳澤主幹指導主事、金井主任、山崎主任指導主事	
当日資料	次第、構成員名簿、第9回懇話会まとめ、校地選定に係る基本方針、中野総合学科新校学びのイメージ、旧第1~3通学区中学校卒業生数と全日制の募集学級数		

会議事項

- (1) 第9回懇話会まとめについて
- (2) 校地検討会議の報告
 - ・校地選定のための検討項目(観点)について
- (3) 新校学びのイメージについての意見交換
- (4) 募集開始年度と募集学級数について
 - ・募集開始年:2030年度、募集学級数:7~8学級程度

構成員から出された主な質問および意見(要旨)

新校学びのイメージについて

1 全体討議内容

- ① 全体の構成について
- ② 「未来に挑戦するための総合学科高校」の表現について
- ③ 「目指す学校像」の内容について
- ④ 教育内容、システムについて
- ⑤ 地域共学コンソーシアムについて
- ⑥ その他 気になったこと

2 全体討議での意見

- 「多様な進路希望に対応できる教育課程」について
 - ・工業、商業等の記述があるが、中野市の特色として農業と観光についても記述した方がよい。
 - ・「オンラインによる大学・専門学校の講義受講」について、他県の様子を見ても大学との連携は進んでいるが、専門学校との連携はあまり進んでいない。できるだけ専門学校との連携も取り込んでほしい。また「オンラインによる」ではなくて、「オンラインも活用する」ということでよいのではないか。
 - ・「大学進学を目指すための科目の充実」とあるが、大学進学に偏った印象を受ける。「多様な進路に対応できる」としているので、就職についても対等に力を入れていくというメッセージがあった方がよい。
- 「環境、地域・国際理解等の課題について地域の人々とともに協働して取り組むESD」について
 - ・環境、地域の課題はイメージしやすいが、国際理解等の課題は具体的にどのようなものを想定しているのかわかりにくい。表現を検討してほしい。
- 「自分の好きや強みを深める活動」について
 - ・「現代社会で必要とされる多様性と専門性の習得」での「現代社会で必要とされる」がどこにかかるのかわかりにくい。また「未来に挑戦する」という観点からも、習得する専門性等については、今の社会に必要とされるものでなくてよいのではないか。

○その他

- ・総合学科であるので、職業教育もしっかり位置付けてほしい。総合学科としての特色が薄まらないようにしてほしい。
- ・「目指す学校」には「未来に挑戦する」とあるが、挑戦をすることで当然挫折もある。学びのイメージに入れられるか分からないが、それを受け止める「学びのフォロープロジェクト」のような体制を盛り込めないか。専門家やカウンセラー等によるもののような狭い意味のものではなく、より柔軟なものでよい。

その他

【次回】

- (1) 第11回中野総合学科新校再編実施計画懇話会
日時：令和5年（2023年）7月下旬または8月上旬
会場：中野市中央公民館 301 講堂
内容：学びのイメージ、再編実施基本計画について
- (2) 第8回校地検討会議
日時：令和5年（2023年）7月下旬または8月上旬
会場：中野市中央公民館 201 会議室
内容：校地の検討結果について

第 10 回懇話会での学びのイメージへのご意見と変更点について

1 「〇多様な進路希望に対応できる教育課程」について

- (1) 「⇒工業、商業、情報、福祉、家庭、外国語、芸術等のバラエティに富んだ学びの充実」について、地域の特色として農業と観光についても記述した方がよい。
→教育課程等の詳細(具体的な教科・科目)については、今後検討していくことになるが、それらの学びを行っていくことをイメージ
- (2) 「⇒大学進学を目指すための科目の充実」とあるが、大学進学に偏った印象を受ける。「多様な進路に対応できる」としているの、就職についても対等に力を入れていくというメッセージがあった方がよい。
→「多様な進路」、「将来のキャリア形成」に進学、就職も含まれていることや、「バラエティに富んだ学び」、「他校の授業履修」により就職に向けた準備が可能であることから、記述の変更なし(順序入替のみ)

⇒大学進学を目指すための科目の充実 ⇒工業、商業、情報、福祉、家庭、外国語、芸術等のバラエティに富んだ学びの充実	⇒工業、商業、観光、情報、福祉、家庭、農業、外国語、芸術等のバラエティに富んだ学びの充実 ⇒大学進学を目指すための科目の充実
---	---

- (3) 「・オンラインによる大学・専門学校の講義受講」について、他県の様子を見ても大学との連携は進んできているが、専門学校との連携はあまり進んでいない。できるだけ専門学校との連携も取り込んでほしい。また「オンラインによる」ではなく、「オンラインも活用する」ということでよいのではないか。
→講義受講だけでなく、連携していくことをイメージ

オンラインによる大学・専門学校の講義受講、他校の授業履修や単位互換	→オンラインも活用した大学・専門学校との連携、他校の授業履修や単位互換
-----------------------------------	-------------------------------------

2 「〇環境、地域・国際理解等の課題について地域の人々とともに協働して取り組む ESD」について

- (1) 国際理解等の課題はどのようなものを想定しているのか。「ESD」「地域の人々とともに」を手段として、解決すべきものを「環境」「地域」「国際理解」としている。SDGs で解決していく課題としているのは「環境」「社会」「経済」である。環境、地域の課題はイメージしやすいが、国際理解等の課題は具体的にどのようなものを想定しているのか分かりにくい。表現を検討してほしい。
→「環境」「社会」「経済」を身近な課題から自分事として捉えていくことをイメージし、環境、地域を記述するとともに、「ユネスコスクール」「ESD」での柱の一つである国際理解も記述

環境、地域・国際理解等の課題について地域の人々とともに協働して取り組む ESD	→環境、地域の課題や国際理解について地域の人々とともに協働して取り組む ESD
---	---

3 「○自分の好きや強みを深める活動」について

(1) 「現代社会で必要とされる多様性と専門性の習得」での「現代社会で必要とされる」がどこにかかると分りにくい。また「未来に挑戦する」という観点からも、習得する専門性等については、今の社会に必要とされるものでなくてよいのではないか。

→「多様な活動を通じた専門性の追求・向上」をサブタイトルとし、⇒の内容等を行っていくことをイメージ

現代社会で必要とされる多様性と専門性の習得	→多様な活動を通じた専門性の追求・向上 ⇒ボランティア活動やインターンシップ等の学校外の学び ⇒異文化理解を深める海外との交流、海外留学への支援
-----------------------	--

(2) 「○自分の好きや強みを深める活動」の「好き」が名詞であるということをはっきり表現してはどうか。(事務局会より)

→「好き」だけでなく、「強み」もあわせて変更

自分の好きや強みを深める活動	→自分の「好き」や「強み」を深める活動
----------------	---------------------

4 その他

(1) 総合学科であるので、職業教育もしっかり位置付けて欲しい。総合学科としての特色が薄まらないようにして欲しい。

→総合学科としてキャリア形成を大きな柱としていることから、今後のカリキュラムづくりの中で検討していく。

(2) 「目指す学校」には「未来に挑戦する」とあるが、挑戦をすることで当然挫折もある。学びのイメージ図に入れられるか分からないが、それを受け止める「学びのフォロープロジェクト」のような体制を盛り込めないか。専門家やカウンセラー等によるもののような狭い意味のものではなく、より柔軟なものでよい。

→今後のカリキュラムや組織づくりの中で研究していく。

未来に挑戦するための総合学科高校

目指す学校

- 挑戦 様々なことに挑戦し、失敗しても粘り強く取り組む力を育む
- 創造 自己と他者を見つめ、社会と積極的に関わりを持ち、変化に柔軟に対応できる創造力を育む
- 協働 地域から世界まで、幅広い視野を持ち、他者と協働し未来社会に貢献できる人を育てる

総合学科×ESD(持続可能な開発のための教育)

キャリアデザイン

探究学習・ESD

多彩な科目

○多様な進路希望に対応できる教育課程

- ・個別最適な時間割が作成できる、将来のキャリア形成に繋がる魅力ある多彩な科目群
 - ⇒工業、商業、観光、情報、福祉、家庭、農業、外国語、芸術等のバラエティに富んだ学びの充実
 - ⇒大学進学を目指すための科目の充実
- ・オンラインも活用した大学・専門学校との連携、他校の授業履修や単位互換

○環境、地域の課題や国際理解について地域の人々とともに協働して取り組むESD

- ・視野を広げ、多様性受容力を高めるための地域共学コンソーシアムや国内外のユネスコスクールとの連携
- ・地域全体を学びのフィールドとした学習活動
- ・地域の人などを外部講師として活用した授業、企業実習(地域人材の活用)

○自分の「好き」や「強み」を深める活動

- ・多様な活動を通じた専門性の追求・向上
 - ⇒ボランティア活動やインターンシップ等の学校外の学び
 - ⇒異文化理解を深める海外との交流、海外留学への支援

地域共学コンソーシアム



幼保小中高



医療・福祉機関

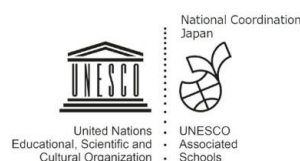


地域産業



自治体

ユネスコスクール



中野総合学科新校(仮称)再編実施基本計画(案)

1 再編統合対象校

中野立志館高等学校、中野西高等学校

2 募集開始(開校)年度

令和 12 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 12 年度を新校の募集開始年度とする。

3 活用する校地・校舎

〇〇〇高等学校

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 総合学科 7～8 学級程度

定時制課程 普通科 1 学級

*学科の名称等は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

*新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

募集学級数は、旧第 2 通学区の中学校卒業予定者数の推移と現在の両校の募集学級数から、新校の募集開始年度を令和 12 年度とした場合 7～8 学級程度が想定される。
現在の中野立志館高校定時制は、中野総合学科新校に移管する。

5 統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり (新校の学校像)

6 統合新校の施設設備について

新校の学びに必要な施設設備及び、高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し質的向上を図っていく。

施設整備に要する期間 6 年程度を想定。